

初夏すくすくと

自然由来の肥料

5月7日、ぶどう畑に有機質肥料と多種類の微生物資材やミネラルが豊富なサンゴを粉状にしたものを散布しました(写真▼)。できるだけ

自然由来のものを使用し、土壌微生物を増やすようにすることで土が柔らかくなり地温も上がり、いい効果が期待できます。①



りんごの加工

5月13日、昨年農園で収穫したふじ約50kgをジャムやコンポートにしました(写真右▲)。よく追熟し糖度も増していました。今回はテスト製造で、来シーズンの商品化や仕事づくりに生かしたいと思っています。①

アスパラ収穫

5月15日からグリーンアスパラの収穫を始めました。小さな面積ですが多くのみなさんからご注文いただき随時発送しています。アスパラの収穫は専用の鎌を使い腰を曲げて一本一本切り取って籠に入れます。気温が高い日は、朝夕の2回収穫します。逆に気温が低い日はあまり伸びません。また、土壌水分も大きく影響して適度な雨がないと発芽が悪く伸びも悪くなります。結局は天気次第で収量が決まるので、毎年、注文の数量を収穫できることを願っています。収穫したアスパラは、倉庫の中で選別して一定の長さにカットします。当農園はM~2Lサイズこみでお送りしています。無農薬、無化学肥料栽培ですので安心して召し上がっていただけます。①



野菜の苗植え

5月15日、野菜の苗植えを行いました(写真▶)。野菜の苗は、近くで野菜苗を専門に作っている岩田農園から購入しました。ミニトマト、なす、きゅうり、ししとう、ズッキーニ、ブロッコリーなど10種類ほどの苗を購入して、さっそく農園の小さなハウスに移植しました。岩田農園では、多くの野菜や花の苗を作っています。当然、機械化できるところはほとんどなく、それはそれは気が遠くなる作業です。①



フチバンシヨ 田舎倶楽部 受け入れスタート

コロナ下ではありますが、今年の宿泊の受け入れが5月1日から始まりました。全国的に変異株の感染が増えている中、今まで以上にリスクは高まりましたが、昨年6月~10月までの受け入れの経験を踏まえて行いました。宿泊されるお客さまも感染対策は十分認識しているようでしたが、受け入れ側も緊張感の中での対応でした。①



火田の中のトイレ

5月13日、簡易トイレを移設しました。長い間宅地横のハウスの横に設置していましたが、休憩中のトイレの行き来に時間がかかるので、ぶどう畑のほぼ中心部に移設しました。周りを廃材やヒバで囲んで手洗い用の水が入ったタンクを用意しました。これでトイレへ行く負担も軽減されます。①



編集後記

今日(5月31日)、長年使用してきた人参収穫機を廃品回収業者さんに引き渡しました。この収穫機は2台目で、15年ほど前に850万円で購入した機械です。一台目は、メーカー違いの750万円でした。このように農業で使用する収穫機は使用する期間が短い割には高価な機械が多いのが通常です。トラクターなどは大型になると1,000万円位しますが、汎用性があり年中使用できるので価値があります。人参収穫機は、自動で土の中に鉄のヘラのよ

うなものを挿して柔らかくし、人参の葉を長い2本のベルトで掴み、堀上げながら葉を切る長さを自動調整して円盤のカッターで切り、横コンベアに落として流し400kg入る大きな袋に入っていきます。23年前に人参の専門農家になって初年度オペレーターがいなかったこともあり、私は500時間くらい収穫機を運転したことを思い出します。この日は、移動のため最後の運転をしましたが、感慨深いものがありました。①

多田農園 通 信

Tada farm
tsushin
2021.06



山と畑の美しい景色にふとトラクターを止めていつの間にかこんなぶどう畑が広がったのかとちょっと驚いています



有限会社 多田農園

〒071-0529 北海道空知郡上富良野町東9線北18号
Tel 0167-45-5935 Fax 0167-45-6012
info@ninjin-koubou.com <http://ninjin-koubou.com/>



雑草対策

防草シート

5月10日、一日中肌寒い日でした。この日は、倉庫の中で防草シートのカット作業を行いました(写真▼)。防草シートは、雨の浸透性がありますが、光を遮断するため雑草を抑えてくれます。除草剤を一切使用しないため重要な役目をします。また、保温、保水効果もあります。このシートは、新植したぶどうの樹の周りを保護するために敷きます。新植した幼木は、雑草などの根がはびこると生育を阻害されます。新植した苗木が順調に生育するためにも雑草は抑えなければなりません。①

5月12日、今年新植したぶどうの樹の周りに防草シートを敷きました。雨の日にカットした50cm四方のシートに5本ずつピンをさして固定しました(写真▲)。①



頼れる ぶらの2号

5月10日、家やバーベキューハウスの壁に這わしてあるぶどうの蔓の誘引をしました(写真▼)。このぶどうはぶらの2号といい、富良野ぶどうワイン研究所が育種したセーベル種とやまぶどう種を掛け合わせた品種です。やまぶどうが入っているので寒さに大変強く-30℃になっても凍害に遭いません。壁のインテリアとして3本植え、年々大きくなって実もたわわにつける頼もしい品種です。①



芦別岳とぶどう畑

5月15日、自宅から300mほど離れたぶどう畑でロータリー耕をしながら西の方を見ると、遠くに残雪が美しい芦別岳が見えました。山と眼前に広がるぶどう畑の美しい景色に思わずトラクターを止めて、カメラに収めました。ふといつの間にこんなに広がったのかとちょっと驚いています(表紙写真)。①



バックス瓶詰 560本

5月12日、2020年産バックスの瓶詰をしました。560本程と本数は少なめですが、今年のバックスは昨年のようなほんのり甘い香りとは違い、バックスの香りがしっかり出ているワインです。瓶詰をしている最中に、上富良野町の齋藤町長がワインを買い求めにいられました。齋藤町長は、昨年11月4人の候補が戦った厳しい町長選で初当選した方です。元役員職員の53歳で、上富良野町としては近年で一番若い町長です。今後の手腕に期待したいと思っています。早速自身のフェイスブックにアップしていただきました。①

2021.5.26 リリース

5月19日、2020年産バックスのラベル貼りをしました。テースティングコメントは「小さな白い花、マスカット香、シトラスの香り。梨のような瑞々しさ、ややオイリーなニュアンスも。北海道らしいミネラル感もしっかり。酸はまるやかで、ブドウ由来の甘味と同時に豊富なミネラル感。爽やかな味わい。」5月26日にリリースしました。①



今年の萌芽

今年のぶどうの萌芽は品種間の差はありますがほぼ順調に出ています。若い樹は早めに萌芽しています。写真▶は5月26日現在のバックスの生育状況です。①



ワインのブレンドテスト

5月16日、ワインのブレンドテストを行いました。このブレンドワインは、多田農園創業120周年記念ワインとなります。赤、白の2種類を作ります。赤はピノ・ノワール、メルロ、カベルネ・ソーヴィニオン、白はシャルドネ、バックス、ミュラー・トゥルガウのそれぞれブレンドです。珍しい組み合わせですが、同じ畑で採れたぶどうのブレンドは、馴染み易いように思われました。①



田園ルージュ



5月19日、田園ルージュの瓶詰を行いました。昨年に続き、ほぼ同じ内容の赤ワインです。キャンベル82%、メルロ14%、カベルネ・ソーヴィニオン4%のブレンドワインです。製造本数は約1,300本。昨年も同じ本数を製造しています。キャンベル

主体のワインは、今回で最後の予定です。いずれの品種も野生酵母で発酵させたやさしいワインに仕上がっており、食事にも合わせやすいカジュアルなワインとなっています。販売は6月中旬くらいです。①

120周年記念ワイン



5月26日~27日、多田農園創業120周年記念ワインの瓶詰をしました。白ワインは「田園ブランES」、赤ワインは「田園ルージュES」とネーミングしました。ESは especial(限定特別な、古雅な感じ)の頭文字2文字をとりました。白ワインは、シャルドネ、バックス、ミュラー・トゥルガウのブレンド、赤ワインはピノ・ノワール、メルロ、カベルネ・ソーヴィ

ニオンのブレンドです。全種類、自社栽培ぶどうでブレンド割合は、栽培面積の割合を基本に行いましたが、ちょうどいいブレンド割合になりました。また、この記念のワインからオリジナルの焼印入りコルクを使用しました。①

